



わくわくだより

○にこにこ
○キラキラ
○わくわく

12月号

訓子府町 認定こども園「わくわく園」 令和4年12月27日(火) 文責 牧野喜充

おねがいします。



シリーズ いきいき子育て ～倉橋惣三に学ぶ～

大正から昭和にかけての日本の保育・幼児教育の基礎を築いた教育者です。幼児教育関係者でこの人の名前を知らない人はおそらくいない程の人物です。倉橋惣三の著書で有名なのが『育ての心』です。その中には保育に関するたくさんの名言があります。

～「自ら育つものを育てようとする心、それが育ての心である。」世にこんな楽しい心があるか。それは明るい世界である。温かい世界である。育つものと育てるものと、互いの結びつきに於て相楽しんでいる心である。

育ての心。そこには何の強要もない。無理もない。育つもののおおきな力を信頼し、敬重して、その発達に導[したが]うて発達を遂げしめようとする。役目でもなく、義務でもなく、誰の心にも動く真情である。それにしても、育ての心は相手を育てるばかりではない。それによって自分も育てられてゆくのである。我が子を育てて自ら育つ親、子等の心を育てて自らの心も育つ教育者。育ての心は子どものためばかりではない。親と教育者とを育てる心である。～

保育教諭の採用面接で、「保育教諭を志した理由は何ですか？」と問うと、ほとんどの人が「子どもが大好きです。小さいころからの憧れの職業でした。」と答えます。ところが、静岡県裾野市で認可保育園に勤めていた保育士3人が園児への暴行容疑で逮捕され、その後、全国で同様の事案が次々明らかになっています。幼い子どもたちがどんなにつらく恐ろしい思いをしたかと思うと、心が痛みます。

今年最後の園だよりが、このことを書かなくてはならなくなり、とても残念に思いますが、保護者の皆様もご心配のことと思いますので、12月21日 読売新聞～解説「保育園の虐待どう防ぐ」論点スペシャル～より、3人の専門家の意見を紹介します。(牧野要約)

今回の事件は、氷山の一角にすぎない 「保育園を考える親の会」代表 渡辺 寛子氏



幼児施設に子どもを預ける家庭に不安が広がっており、不適切な保育から子どもを守るためには、思い切った対策が必要だ。会にも、保育士の園児に対する「どう喝」や「突き飛ばす」などといった不適切保育の相談が相次いで寄せられている。保育士同士が話し合い、保育を振り返る機会があれば改善できるが、多くの園で園内が閉鎖的になり、他の保育士が不適切保育に気づいていても声を上げられない雰囲気になっているのではないかと。話し合いができる風土づくりに向けた施設長の指導力や人権意識も不足している。保護者も園内の状況を確認することが必要だ。ただ、保育は、保護者との信頼関係に成り立っているモノなので、初めから園を疑ってかかることは避けたい。

見直しが必要 恵泉女学園大学長 大日向 雅美氏 (親子関係の発達心理学の専門家)



女性活躍が叫ばれ、働く女性が増える中で、「子どもを預けるのが怖い」「預けて働くのはよくない」という意識の揺り戻しが起こり、働く親たちも苦しむのではないかと心配です。

コロナ禍で、働く親の誰もが幼児施設はなくてはならないインフラだと意識しています。ところが、どの施設もぎりぎりまで運営している現実があります。ほとんどの保育士・保育教諭は、子どもや保護者のために懸命に努力しています。だからこそ、運営の内実を再検討する必要があります。

保育士も『慈母観音』ではない。言うことを聞かない子どもに、つい不適切な声掛けをすることもあろう。問題はそれが恒常的に続くことや、注意する同僚がいないことだ。「あの保育は良くなかった」など、振り返る会議を定期的に行ったり、最新動向や先進的な保育を学ぶ研修をしたりすることが大切だ。そのためには時間のゆとりが必要だ。保護者は厳しい目で施設を監視するだけでなく、感謝や労りを日々伝えるといい。この機会に保育園の内情を広く知ってもらい、これから保育士になる若者たちを温かく応援できる世の中になることを願う。

現場の負担を軽減する NPO 法人フローレンス会長 駒崎 弘樹氏 (内閣府：子ども・子育て会議委員)



保育士が園児への暴行容疑で逮捕されたことに、非常にショックを受けた。一方で、保育事業者として、こうした事件はいろいろな施設で起こりうると言わざるを得ない。

虐待の背景には、保育士の多忙さがある。コロナ禍で負担が増して、保育士同士のコミュニケーションが取りづらくなり、保育がスムーズにいかない場面も出てきた。離職者も増えてきている。

保育施設は今でもかなり頑張っており、施設の自助努力に頼って質の向上を目指すのは難しい。保育士にはスーパーマンであることを求められている。虐待や不適切な保育の防止に向け、研修をしたり、チェックリストを作ったりということが考えられるが、それができる施設はそもそもあまり問題はないだろう。とにかく手いっぱいという施設は、そうした対策を取ることが負担となり、現場はさらに余裕がなくなる負のスパイラルに陥る。

現場の負担を軽くする必要がある。例えば、保育室内の手作りの装飾をやめたり、行事を減らしたりしてもいいのではないか。行政の報告書類もデジタル化すれば、事務の手間が削減できる。

逮捕された保育士は、「コロナ過で業務が増えストレスが溜まっていた。」と言っています。忙しいのは皆同じです。コロナを言い訳にしません。この事件を受け、先生方で話し合いチェックリストを作成しました。

～不祥事防止チェックリスト～ (例：一部) 5段階評価

1	• どのような言動が人権侵害にあたるかを理解している。	A	B	C	D	E
2	• 差別的な言動を行っていない。					
3	• 園児との信頼関係を築くことが大切である。体罰で人間は育たないことを理解している。					
4	• 不祥事を他人事として考えず、危機意識を持つように努めている。					
5	• 仕事とプライベートのオンとオフを意識したライフワークができている。					

信頼回復

自然災害やコロナなどの感染症、交通安全など、職員は、常に子どもたちの命と健康を守ることに努めています。それが自らの手で安全を脅かす行為に及んだ今回の事件に大きなショックを受けました。これを「対岸の火事」とせず、今一度私たちの使命を確認し、幼児施設への不信感を払しょくする努力をしていきます。また、これを機に園の運営についても3人の専門家の指摘を受けて見直していきたいと思います。私たちは、倉橋惣三先生の教え「育ての心」(子等の心を育てて、自らの心も育つ教育者である)を肝に銘じます。

1月の行事予定 *行事予定は、コドモンでも確認できますのでご利用ください。

1	日	元日 年始休業4日まで	18	水	CAP①	
2	月	休み中の連絡は、コドモンで受け付けます。	19	木	CAP②	
3	火		20	金	CAP③	
4	水		21	土		
5	木	保育開始	22	日		
6	金	行事は、コロナの状況で変更することがあります。ご了承ください。	23	月	誕生会 避難訓練	
7	土		24	火	職員会議A	
8	日		25	水	たてわり保育 職員会議B	
9	月		祝日) 成人の日	26	木	冬の親子レク (3歳) スポセン交流 (5歳)
10	火		2022 (令和4) 年もコロナとの闘いの1年でした。皆様のご理解とご協力で何とか乗り越えました。2023 (令和5) 年こそ、落ち着いた年になることを祈るばかりです。良い年をお迎えください！	27	金	居小との交流 (5歳)
11	水	28		土		
12	木	29		日		
13	金	30		月	親子レク (4歳)	
14	土	31		火	お弁当の日 親子レク (5歳) リズム遊び	
15	日	♪1月の歌♪ Jまめまき Jゆき Jパレード Jもしも				
16	月	冬季休業最終日		コックさんだったら、(て) やさいのうた *園だよりは、コドモンの資料室に入っています。		
17	火	お集まり会 (3~5歳) CAP 親のワークショップ				



0~4歳児